

## 令和3年4月（第1回）教育研究評議会議事要旨

日 時 令和3年4月21日（水）13：30～15：18  
場 所 （ウェブ会議システム「Microsoft Teams」を利用）  
出席者 36／37  
欠席者 伊達医歯薬学総合研究科長

○ 議題に先立ち、学長から、本年度は第3期の最終年度であり、来年度からの第4期に向けて様々な準備をしていくことが自身に課された大きなミッションであること、そして岡山から地域の方々と共育・共創によって新たな価値を世界に発信していくためにも、いかに皆様とのパートナーシップ、エンゲージメントを創っていくことが重要であり、本学の構成員には本会議での情報をしっかりお伝え願いたい旨協力依頼があった。続いて、新任の評議員等の紹介があり、それぞれ挨拶があった。続いて、袖山事務局長から、新たに陪席することとなった事務系幹部職員の紹介があり、それぞれ挨拶があった。

○ 前回議事要旨の確認

令和3年3月開催（第11回）及び同持ち回り（第12回）の議事要旨（案）について、原案のとおり確認された。

○ 議事

### 1 審議事項

(1) 国立大学法人岡山大学学長選考会議規則第2条第1項第2号委員の選出について

高橋理事から、資料1に基づき、教育研究評議会選出の学長選考会議委員の任期満了に伴う後任の委員として、「教育研究評議会における委員の選出方法（令和2年4月教育研究評議会決定）」により、5名の評議員を選出すること、また、その任期はそれぞれの評議員としての任期とする旨の提案があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

(2) 教員懲戒等審査委員会委員の指名について

学長から、令和3年度の標記委員会委員として、8名の評議員及び標記委員会委員長を指名すること、また、その任期は本年度末までとすること、及び今回指名の委員に利害関係が生じる事案があった場合は、その代理委員の指名については一任願いたい旨の提案があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

(3) ダイバーシティ&インクルージョンポリシーの制定について

高橋理事から、昨年4月に神例副学長（当時）を委員長として、ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会を設置し、現行のダイバーシティポリシーをさらに発展・進化させたポリシーの改定案等を検討願いたいとあり、この度その案が取りまとめられたため本会議で意見を聞いた上で4月の役員会で審議決定する予定である旨説明があった。続いて、神例上席副学長から、資料2に基づき、昨年12月16日開催の部局連絡会において、「岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンポリシー（素案）」

及び「岡山大学における D&I の現状と課題及び第 4 期中期目標期間に向けた提言（中間報告）」の報告をした後、学外有識者、岡山大学 SDGs アンバサダー及び SDGs 未来懇談会の学生メンバーへの意見、さらに若手教職員による岡山大学未来懇談会での議論等を経て、最終的に「ポリシー（案）」及び「提言」として取りまとめたこと、また、改正に至る経緯の概要、「ポリシー（案）」の改正点及びその内容並びに「提言」の概略について説明があった。また、特に、岡山大学未来懇談会からカタカナ語が多くわかりづらいとの指摘があったことに対し、D&I 企画推進委員会の検討結果として、いずれの語も D&I を考えるキーワードであり一義的に訳語を示すことが困難であり、訳語を示すこと自体が問題を生じさせかねないこと等の理由からあえてそのまま当該カタカナ語を使用したことの説明があり、審議の結果、提案のとおり承認された。なお、高橋理事から、6 月 30 日にお披露目のイベントの開催を予定しているので出席いただきたい旨発言があった。

#### （4）データサイエンス教育の推進と体制整備について

阿部理事から、資料 3 に基づき、背景として、「AI 戦略 2019（令和元年 6 月統合イノベーション戦略推進会議）」があり、主な具体的目標と取組の 1 つに教育改革が位置付けられ、『デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み・・・』との記述があることを踏まえ、本学におけるデータサイエンス教育の方向性として、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（「リテラシーレベル」）及びコンソーシアムに参画して「統計エキスパート人材育成プロジェクト」に申請予定としていることや、今後、「応用基礎レベル」でも認定制度の設定が予定されており、アドバンスプログラムの開発等も求められることも想定されることから、基幹教育センター DS タスクフォースを格上げした上で、「AI・データサイエンス教育研究センター」を設置することとしたい旨説明及び提案があった。また、このことに関し、那須理事から、「AI 戦略 2019」には「教育改革」はもとより、「研究開発」、「社会実装」等にも主な具体目標と主な取組が記述されておりそれらを担う人材を本学が育成するものであり、教育の改革に基づいてそれぞれの研究等の活動にシフトしていくことが大前提であること、また、舟橋理事から、当該センターは教育研究一体で取り組んでいくことで進展していくものであることの補足説明があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

## 2 報告事項

### （1）教員の懲戒処分について

議事要旨は、法務・コンプライアンス対策室において作成・保存

### （2）第Ⅳ期に向けた行動計画について

高橋理事から、例年年度当初に行動計画をお示ししているため、各担当理事からその概要をお知らせしたい旨説明があり、経営及び組織改革については高橋理事から、教学については舟橋理事から、研究・産学共創については那須理事から、大学病院については前田理事から、財務・施設については袖山理事から、DX については阿部理事から、それぞれ資料 4 に基づき、各所掌事項における本年度の行動計画の概要及び

背景等を含め説明があった。

(3) 中期目標の達成状況に関する評価結果（4年目終了時評価）（案）について

伊藤評価センター長から、資料5に基づき、大学改革支援・学位授与機構から通知のあった標記評価結果（案）として、教育、研究、社会連携及びグローバル化の各領域における判定結果並びにその中で改善を要する点及び優れた点の概要について報告があり、令和4年度に実施予定の中期目標期間評価に向けた対応として、改善を要する点の指摘を受けた項目については本年度中に実績値を目標値に近づけるよう尽力願うとともに、その他の項目についても判定を引き上げるよう併せて尽力願いたい旨依頼があり、また、今後のスケジュール予定についても説明があった。なお、どのような形態の授業を行えば、「英語による授業科目」としてカウントできるのかについて質問があり、詳細について確認し連絡する旨回答があった。

(4) 2021年度入学者選抜実施状況について

舟橋理事から、資料6に基づき、学部入試及び大学院入試の状況について前年度と比較しつつ報告があり、IB選抜の辞退者が年々増加しているため、理由の分析や対策を検討しているところであること、及び大学院入試の定員未充足の研究科・課程・専攻があるが、一定のルールにより第Ⅲ期分をまとめて運営費交付金を返還しなければならないこととされているため、定員充足率を少なくとも90%を下回らないよう留意願いたい旨依頼があった。なお、この資料に経営の観点から損益等の額なども併せて記載してはとの提案があり、検討することとしたい旨回答があった。また、留学生の獲得のためまずは大学院のところで英語による授業科目を設定し英語で理解できるように検討を進めている旨の意見が出され、それに併せて大学院改革で学位プログラム化の検討の際に充足率を満たすという観点から検討するよう依頼があった。

(5) 寄付講座の存続期間の更新について

那須理事から、資料7に基づき、令和3年4月1日付けで存続期間を更新することとした医歯薬学総合研究科設置の3件の寄付講座（「地域医療人材育成講座」、「岡山県南東部（玉野）総合診療医学講座」及び「運動器スポーツ医学講座」）及び教育学研究科設置の1件の寄付講座（「国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座」）の存続期間の更新をしたこと、及び各寄付講座の概要について説明及び報告があった。

(6) 令和3年度岡山大学予算について

袖山理事から、資料8に基づき、当初予算配分予算額の内訳として、全学人件費、部局運営経費及び病院運営経費等への配分額及び対前年度比の状況並びにその配分際際の背景及び理由について説明があり、また、予算配分の主なポイントとしては、全学経費では主な重点施策への対応として、教育改革、研究力強化・産学共創加速及び大学経営改革への配分額及び学長裁量ないしは理事裁量経費を確保したこと、部局経費では教育研究活動成果等に基づくインセンティブ配分等への対応として、当該評価結果に基づき反映させていること、かつ、教育設備老朽化の現状を踏まえた教育活動を支援する経費を措置したことの説明があり、併せて、部局配分方針の概要につい

て説明があった。また、来年度の運営費交付金の予算要求については国の方針が定まっておらず流動的である状態となっており、各種作業を依頼することも想定されるため協力願いたい旨依頼及び報告があった。

### 3 その他

#### (1) 次回開催日について

今回は、5月19日（水）13時30分から開催することとなった。

以上